

夢窓幼稚園通信第31号

2019年 8月 29日

8月のおわり頃 秋に向けて・・・

その一

お泊り会の初日の今日、鉄道博物館へ出かけました。古い時代の機関車や展示物から新しい鉄道までを体験でき、わくわくの連続でした。

そして実際SLスチーム号に乗車中に、わたに目にするこがないドクターイエローが颯爽と走り過ぎていたり、別の機関車が行ったり来たり、の繰り返し運転を見せてくれたり、前のオリンピックの前年から走ってきた0系新幹線が展示してあったり・・・なのです。

鉄道の変化を通して・・・例えば「なのですが・・・時の流れを大人はもちろん、子どもたちも「おじいちゃんやお父さんが子どもの時に走っていて乗っていたものとして感じられるのは、とても素敵なことだ」と思いました。

子どもたちはお母さんが小さかった時のことやおばあちゃんが子どもだったときの話を聞かせてもらうのが大好きです。

そのような時間にいのちには満たされた「意識」が入から、世代から世代へとつながっていくのでしょ。

幼い子どもたちが大人の様子に憧れモデルにして真似していくのは、見える言葉づかいや行動ばかりではなく、その意識の在り方・精神性なのでしょ。

この秋 子どもたちは私たちの何を模倣して、自分の世界をふくらませていくのでしょ!?

その二

これも その一と同じ鉄道博物館でのことです。

3Fのスカイテラスにはじめて出ました。

今までこんな所があるのを知らなかったのです。

そこからの風景は とてもよくて、空のながりに心がスッキリとします。流れる雲と友だちになれそうです。東寺の塔や京都タワーが爽やかにそこにいます。

次々に通過する列車を上から眺めていると、(おかしな表現
なのですが)ほんもののジオラマ体験です。

地上に身を置いて過しながら、もし視点というか、心き
ひよいとある程度の高さに引きあげて、向き合っている
出来事や人や、何より自分自身の状況や境遇を眺められる
なら、ことによると違ったものとして見えてくるかもしれません。

言葉では言えても、実際はなかなか「ひよい」というのは難しい
ことでしょうか、だんだんと空が澄んでくる秋を前にして、
そんなことを試してもいいな!と思いました。

秋まつりも待っていますし、次々と恵みが届けられる季節に、
様々な存在たちにお返しをする道の入口が、そこらへんに
ありそうな気がするのですが、どうでしょうか?

その三

夜の遅くというか、早い朝に眠ろうと横になると、不思議な
ことに天井にうっすらと雲のような白いものが漂いはじめ、
ひとつの小さな点がひかぴかと光ったり消えたりするので
ぼんやりとその様子を眺めていると...気がついたら
天井一面に小さな星が無数キラキラしているのです。
「ここは屋外だったかな?」と迷いながら、眠っているのか
起きているのか判然としないうちで思い巡らしながら

「あ、この星空は自分の心の中の風景で、いつも自分は
星々の世界を 星々と共に生きているのだな」と思ったの
でした。

実際 私たちは そんな風に大宇宙を生きているのでしょう。
そして今、私たちは とても大切な1919年長月9日を
みんなであげようとしています。

お泊り会による・あさに
園長 升光 泰雄

2学期もどうぞよろしく お願いします。